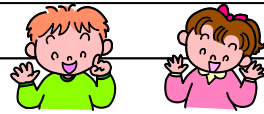




元気の花 なかよしの花 やる気の花 安全の花



何気ない日々の中に見る子どもの良さ・成長

竹内まりあさんの「いのちの歌」という曲をご存知でしょうか。

いのちの歌

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい 人々のあたたかさ
この星の片隅でめぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりも たいせつな宝物



泣きたい日もある 絶望に嘆く日も
そんな時 そばにいて 寄り添うあなたの影
二人で 歌えば 懐かしくよみがえる
ふるさとの 夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは 隠れて見えない
ささやかすぎる日々の中に かけがえない 喜びがある

いつかは 誰でも この星にさよならを
する時が 来るけれど 命はつがれてゆく
生まれてきたこと 育ててもらえたこと
出会ったこと 笑ったこと そのすべてにありがとう
この命に ありがとう



「本当にだいじなものは隠れて見えない ささやかすぎる日々の中に、かけがえない よろこびがある・・・」子ども達と一緒に過ごしていて、ささやかな日々の暮らしの中に、「何て素敵な子なんだろう。」「人としてしっかり成長しているなあ。」と感じて、心から嬉しくなる時があります。

ちよっとし話1

月曜日と木曜日、ごみ出しの日に、いつも大きなゴミ袋をかかえて登校する男の子がいます。「感心だね。」と声をかけると「これからもがんばります！」と力強く答えてくれました。家庭の中で、自分の役割を自覚して、しっかり果たしています。頼もしい素敵な子です。

ちよっとし話2

登校中、横断歩道を渡っていたら、青信号が点滅してしまいました。急いで渡り切ろうとする低学年の子を気遣って、そっと手を添えてくれる女の子がいます。その子は意識してやっていないのかもしれませんが、そのまなざしは慈愛に満ちた、やさしい穏やかな表情です。

ちよっとし話3

「校長先生、はいごみ！」とごみを拾ってきてくれる子がいます。「ありがとうね。あなたたちのような人が増えたらきれいなまちになるだろうね。でもあまり無理をしなくていいからね。」子ども達の大げさではない自然な表情の中に、心の美しさを感じてうれしくなります。

ちよっとし話4

「おはようございます！」と立ち止まって言い、そのあとで、ていねいにお辞儀をする子たちがいます。「先言後礼(せんげんごれい)(語先後礼(ごせんごれい))というそうです。二つの動作を一緒にするのではなく、分けてするととても美しいあいさつになります。中学校でもやっているそうです。

ちよっとし話5

「先生、昨日はありがとうございました。」と昨日のことのお礼を言える子がいます。大人でもなかなかできないことかもしれません。お礼は時間を置いて2度言うと、相手に気持ちが伝わるそうです。1回で「ごめんなさい」が伝わりにくいときにも、いいかもしれませんね。

これらは、私が、日々の暮らしの中で子ども達から教えてもらったことです。皆様それぞれ、このようなことを感じられたことがあるのではないのでしょうか？